

豊島区立 熊谷守一美術館だより

2018年 春号 vol.51 <http://kumagai-morikazu.jp>



**熊谷守一美術館
33周年展**
5月11日(金)から
6月24日(日)まで

当館では5月11日(金)から、「熊谷守一美術館 33周年展」を開催します。



1985年、私設として開館した年から数えて毎年開催される恒例の特別企画展です。

今年、岐阜県中津川市付知町の熊谷守一「ち記念館より、油絵「立秋の朝」あぢさい」



「朝の富士」「秋元湖」など数点と墨絵をお借りします。また、新たに岐阜県美術館蔵となった「百日草」「野菜」「仏画下絵」の3点も収蔵作品展に引き続きお借りします。

3Fは収蔵作品展と同様に第3展示室となり、墨絵と書を展示します。全館で100余点の熊谷守一作品をご覧いただける特別展です。ぜひ皆さまお誘いあわせの上、お出掛けください。



■休館日 祝祭日
■観覧料 一般/700円、高・大学生/3000円、小・中学生/1000円、小学生未満無料、障がい者手帳提示の方100円(介助者1名無料)、団体要予約

※本展覧会の前5月7日(月)から10日(木)まで4日間、展覧会終了後6月25日(月)から28日(木)までの4日間は展示作業のため全館休館します。お間違えのないようお気を付け下さい。

**特別企画展
熊谷守一美術館
収蔵作品展**

4月1日(日)まで、特別企画展「熊谷守一美術館 収蔵作品展」を開催しています。



昨年寄贈を受け、新たに収蔵したクロッキ一画17点を含め、全館で110点程の熊谷守一作品をご覧いただけます。

■観覧料 一般/600円、高・大学生/3000円、小・中学生/1000円、小学生未満無料、障がい者手帳提示の方100円(介助者1名無料)

**東京国立近代美術館
没後40年
熊谷守一 生きるよろこび**

3月21日(水)祝日まで(没後40年 熊谷守一 生きるよろこび)が、東京 竹橋の東京国立近代美術館で開催されています。



03-5777-8600(ハローダイヤル)
アクセス 東京メトロ東西線竹橋駅徒歩3分

03-5777-8600(ハローダイヤル)
アクセス 東京メトロ東西線竹橋駅徒歩3分

モリの映画について

この春に、父・熊谷守一をモデルにした映画が公開されます。最初、映画会社からその話を聞いて、モリの最晩年、94歳の何も無い1日を映画にして何が楽しいのかしらって。そんな面白くもおかしくもないからお薦めしませんと伝えました。それでも、映画会社の方々が大変熱心だったので、脚本を最後まで読ませてもらうことを条件に「わかりました」と。秋頃、脚本が届いて、事実と違ふところや、モリが絶対に言わないセリフなどあったので、それは何度もお手紙を出しました。

昨夏、撮影の前に監督がいらして、出来れば大きな修正をしないまま作らせて欲しい、映画はドキュメンタリーではなくフィクションだといふことを理解して欲しい、という丁寧な説明を受けまして(笑)。結局は、「こちらがどうしても」というところ以外は、沖田監督が書かれた最初の脚本に近い感じで撮られたと思います。モリのことを好きだという山崎努さんは、もとの顔が似ているわけじゃないのに、顔の感じや着ているものも良く似せていました。

わたしはドラマや映画を全然見ないので時々テレビで樹木希林さんをお見かけして素敵なた方だと思っていた。母は希林さんみたいに聡明でなくて、女学生のまま婆さんになつたような人だったから、希林さんの方が素敵でした。アトリ工など、よく再現されていたと思います。庭と家の中は、あんなに広くないです。

モリは人が好きだったんだけど、家に男の人をあげるのを嫌いました。どんなに仲が良くても、信時潔さんですら家に泊めたことがないんです。だから映画にあつたように、知らない男が大勢うちの居間で夕飯をするつことはまず考えられません。家の敷地から一歩も出られなくなつたのは最後の数年ですし、母方の姪の恵美ちゃんも、映画とちがつて本当はともおとなし性格だったんですよ。

あくまで映画は映画。心配なのは、エピソードや会話がすべて事実と忠実だと誤解されな

いかしらつてこと。勲章内示の電話のくだりなんかは特にね。映画に関わつた多くの方の、心に描いた「熊谷守一」が、ひとつの作品となつていきますのでそれを楽しんでいただければいいかなと思います。去年試写会で見ただけなのに、すっかり記憶が曖昧なの。今年89歳になるとはいえ、映画の中のモリよりずっと若いのに困りますね。

金曜デッサン会

次の金曜デッサン会は4月6日から連続5回開催します。その後、企画展の為9週休止。再開は7月13日となります。

本紙掲載作品

題字横「白猫」1959年(当館蔵)、一段目「百日草」1962年(岐阜県美術館蔵)、「野菜」1949年(岐阜県美術館蔵)、「立秋の朝」1959年(熊谷守一「ち」記念館蔵)、二段目「アケ羽蝶」1976年(当館蔵)油彩絶筆、「鬼百合に揚羽蝶」1959年(東京国立近代美術館蔵)、「朝の日輪」1955年(愛知県美術館 木村定三コレクション)

豊島区立 熊谷守一美術館だより
2018年 春号 第51号

- 休館日/祝祭日 祝祭日 年末年始休館
- 開設時間/午前10時～午後5時(常設展示室のみ金曜日は午後8時まで)
- 住所/東京都豊島区千早2-27-6
- 電話/03-3995-7379
- 常設観覧料/一般500円、高・大学生3000円、小・中学生1000円、小学生未満無料
- 障がい者手帳提示の方は100円(介助者1名無料)※特別企画展は料金異なります。
- ◎タクシー/池袋駅西口より約900円(5分)
- ◎バス/池袋駅西口バスターミナル芸術劇場前から「池袋駅西口」乗車または西口ピッコロから「池袋駅西口」乗車(要小中学校)で下車徒歩5分/右に進み要小中学校正門を越えた角を左折/案内に従つてお越しください。
- ◎地下鉄/東京メトロ有楽町線・副都心線の要町駅出口2番から徒歩10分程/「要小中学校」正門を目指し大通りを直進/「要小中学校」正門を角を学校の柵に沿って左折/30歩ほど歩くと左に入る道があるので再度学校の柵沿いに左折/すぐ目の前にあらわれるY字を右に直進(案内板と電柱広告を見ながらお越しください)
- 発行/株式会社指定管理者 代表 熊谷権
- 第1版/2018年3月6日発行(1000枚)